

Ⅱ 作物別作付（栽培）面積

1 水陸稲（子実用）

(1) 水稻

令和3年産水稻（子実用）の作付面積は140万3,000haで、前年産に比べ5万9,000ha（4％）減少した（表5）。

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、昭和45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図4）。

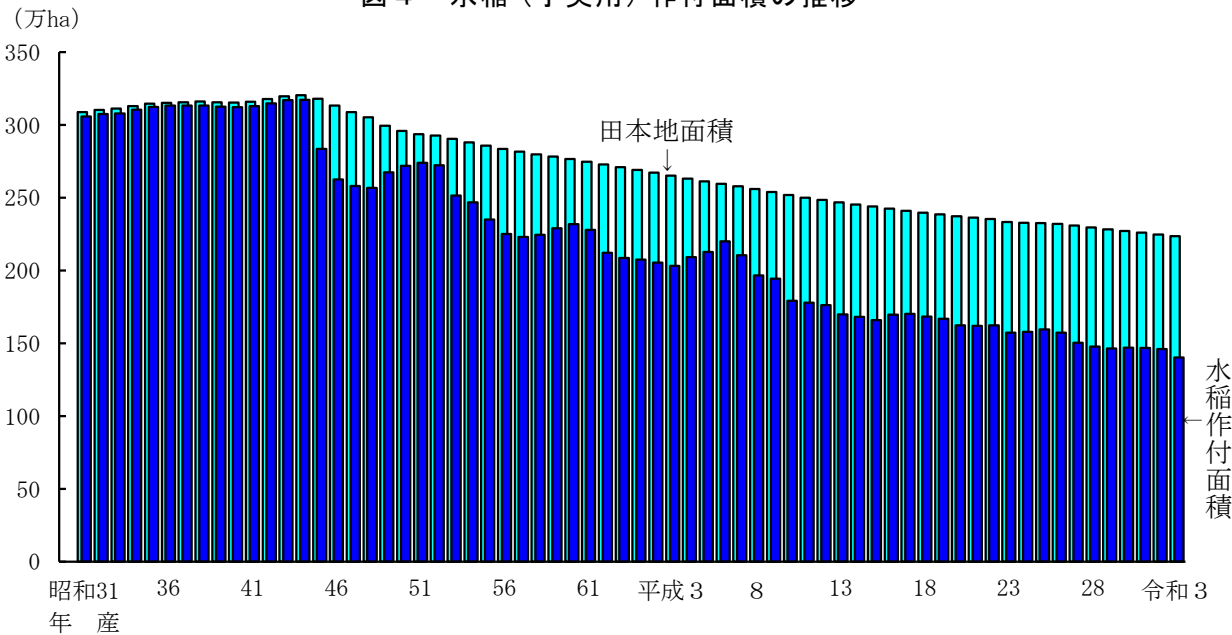
(2) 陸稲

令和3年産陸稲（子実用）の作付面積は553haで、前年産に比べ83ha（13％）減少した（表5）。

表5 令和3年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稻			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,404,000	△58,000	96	1,403,000	△59,000	96	553	△83	87
北 海 道	…	nc	nc	96,100	△6,200	94	…	nc	nc
都 府 県	…	nc	nc	1,307,000	△52,000	96	…	nc	nc
東 北	…	nc	nc	363,000	△18,500	95	…	nc	nc
北 陸	…	nc	nc	201,800	△4,600	98	…	nc	nc
関 東・東 山	…	nc	nc	253,100	△16,500	94	…	nc	nc
東 海	…	nc	nc	89,600	△2,900	97	…	nc	nc
近 畿	…	nc	nc	99,300	△2,000	98	…	nc	nc
中 国	…	nc	nc	98,800	△2,400	98	…	nc	nc
四 国	…	nc	nc	45,900	△1,500	97	…	nc	nc
九 州	…	nc	nc	155,100	△3,500	98	…	nc	nc
沖 縄	…	nc	nc	666	16	102	…	nc	nc

図4 水稻（子実用）作付面積の推移



2 麦類（子実用）

(1) 4 麦計

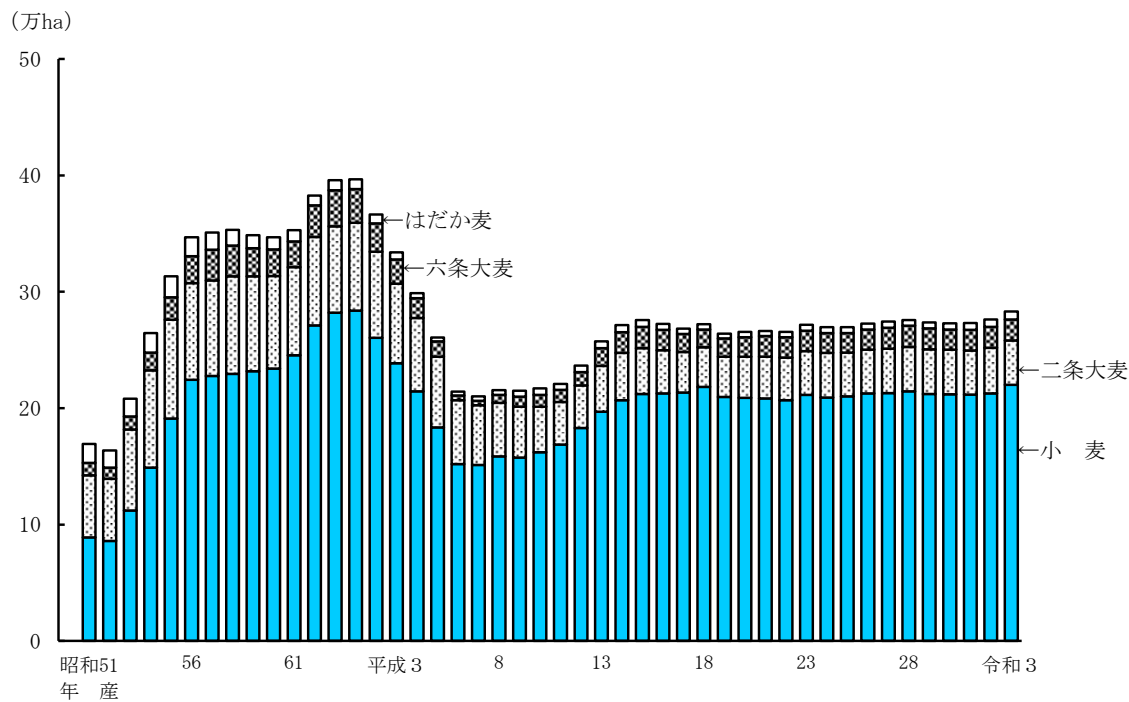
令和 3 年産 4 麦（子実用）の作付面積は28万3,000haで、前年産に比べ6,800ha（2％）増加した。麦種別には、小麦は前年産に比べ7,400ha（3％）増加し、二条大麦は前年産に比べて1,100ha（3％）減少し、六条大麦は前年産に比べて100ha（1％）増加し、はだか麦は490ha（8％）増加した（表 6）。

作付面積の動向をみると、作付農家数の減少、水田裏作の減少等により昭和48年に15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたこと、米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には39万6,700haとなった。平成 2 年以降は水田裏作の減少等により再び減少し、平成 7 年には21万200haとなった。平成 8 年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移したが、平成14年以降はほぼ横ばいとなっている（図 5）。

表 6 令和 3 年産 4 麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4 麦 計	283,000	6,800	102	180,400	4,000	102	102,600	2,800	103
小 麦	220,000	7,400	103	123,000	4,900	104	96,900	2,400	103
二条大麦	38,200 △	1,100	97	34,800 △	1,100	97	3,340 △	100	97
六条大麦	18,100	100	101	16,500	100	101	1,510 △	70	96
はだか麦	6,820	490	108	6,000 △	70	99	817	552	308

図 5 4 麦（子実用）作付面積の推移



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

令和３年産小麦の作付面積は22万haで、前年産に比べ7,400ha（３％）増加した。
このうち、北海道は12万6,100haで、前年産に比べ3,900ha（３％）増加した。
また、都府県は９万3,900haで、前年産に比べ3,500ha（４％）増加した（表７）。

イ 二条大麦

令和３年産二条大麦の作付面積は３万8,200haで、前年産に比べ1,100ha（３％）減少した（表７）。

ウ 六条大麦

令和３年産六条大麦の作付面積は１万8,100haで、前年産に比べ100ha（１％）増加した（表７）。

エ はだか麦

令和３年産はだか麦の作付面積は6,820haで、前年産に比べ490ha（８％）増加した（表７）。

これは、健康食品としての需要の高まり等により、他作物からの転換等があったためである。

表７ 令和３年産４麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	４ 麦 計			小 麦			二 条 大 麦			六 条 大 麦			は だ か 麦		
	前年産との比較			前年産との比較			前年産との比較			前年産との比較			前年産との比較		
	作 付 面 積	対 差	対 比	作 付 面 積	対 差	対 比	作 付 面 積	対 差	対 比	作 付 面 積	対 差	対 比	作 付 面 積	対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	283,000	6,800	102	220,000	7,400	103	38,200	△ 1,100	97	18,100	100	101	6,820	490	108
北 海 道	128,300	4,100	103	126,100	3,900	103	1,740	△ 20	99	x	x	x	498	303	255
都 府 県	154,700	2,600	102	93,900	3,500	104	36,400	△ 1,100	97	18,000	0	100	6,320	180	103
東 北	7,760	100	101	6,290	△ 10	100	x	x	x	1,450	110	108	x	x	x
北 陸	9,990	250	103	331	△ 24	93	2	0	100	9,660	280	103	2	0	100
関東・東山	37,500	△ 100	100	20,400	△ 100	100	12,000	△ 200	98	4,530	10	100	x	x	x
東 海	17,400	400	102	16,900	700	104	18	7	164	511	△ 192	73	x	x	x
近 畿	10,400	0	100	8,230	140	102	155	x	x	1,760	△ 170	91	x	x	x
中 国	6,740	160	102	2,890	200	107	2,950	90	103	x	x	x	790	△ 137	85
四 国	5,340	210	104	2,490	90	104	x	x	x	x	x	x	2,800	90	103
九 州	59,500	1,500	103	36,300	2,400	107	21,200	△ 1,100	95	28	9	147	1,940	180	110
沖 縄	14	x	x	12	△ 1	92	2	x	x	-	-	nc	-	-	nc

3 かんしょ

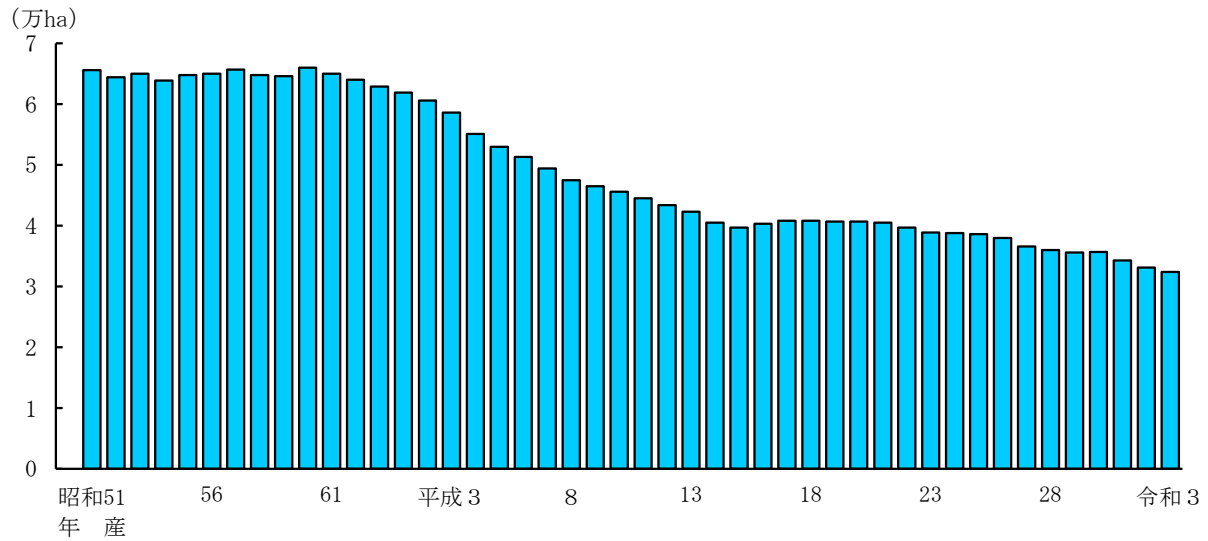
令和３年産かんしょの作付面積は３万2,400haで、前年産に比べ700ha（２％）減少した（表８）。

作付面積の動向をみると、昭和60年以降は減少傾向で推移している（図６）。

表８ 令和３年産かんしょ作付面積

区 分	計			田			畑		
	前年産との比較			前年産との比較			前年産との比較		
	作 付 面 積	対 差	対 比	作 付 面 積	対 差	対 比	作 付 面 積	対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
か ん し ょ	32,400	△ 700	98	1,970	△ 210	90	30,500	△ 400	99

図6 かんしょ作付面積の推移



4 そば（乾燥子実）

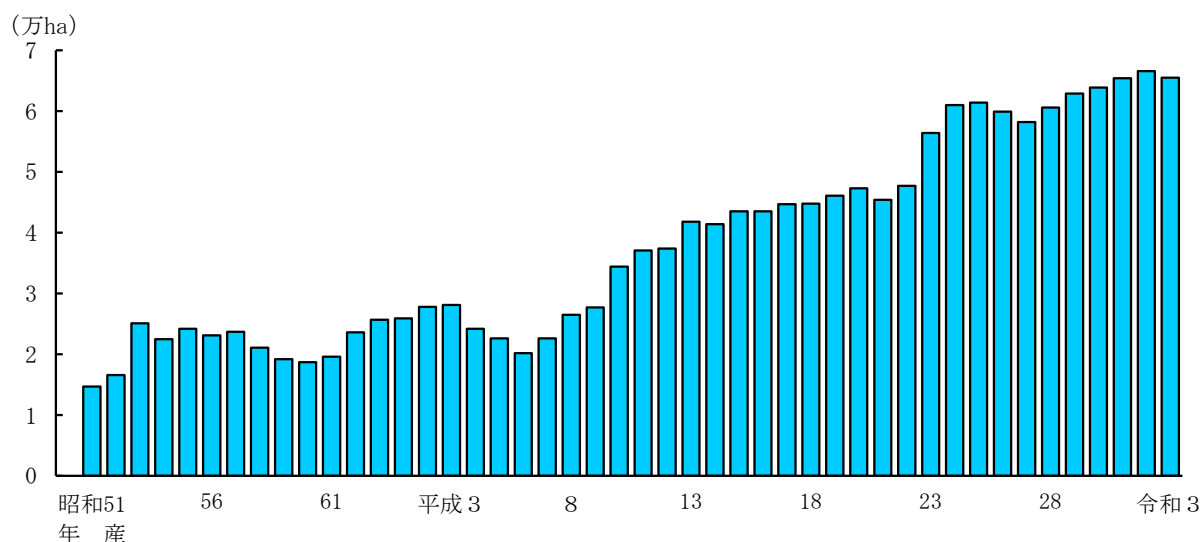
令和3年産そば（乾燥子実）の作付面積は6万5,500haで、前年産に比べ1,100ha（2%）減少した（表9）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4年から平成6年までは減少した。平成7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している（図7）。

表9 令和3年産そば（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	65,500	△ 1,100	98	38,500	△ 400	99	27,000	△ 800	97
北 海 道	24,300	△ 1,400	95	9,050	△ 680	93	15,300	△ 700	96
都 府 県	41,200	300	101	29,400	300	101	11,800	0	100
東 北	17,600	600	104	13,500	500	104	4,040	△ 10	100
北 陸	5,540	△ 30	99	4,940	△ 10	100	596	△ 25	96
関 東・東 山	12,300	△ 200	98	6,600	△ 180	97	5,710	△ 10	100
東 海	534	△ 35	94	450	△ 15	97	84	△ 20	81
近 畿	x	x	x	885	x	x	x	x	x
中 国	1,490	△ 40	97	1,310	△ 40	97	179	△ 3	98
四 国	119	13	112	75	12	119	44	1	102
九 州	2,640	40	102	1,630	0	100	1,010	38	104
沖 縄	46	△ 23	67	-	-	nc	46	△ 23	67

図7 そば（乾燥子実）作付面積の推移



5 豆類（乾燥子実）

(1) 大豆（乾燥子実）

令和3年産大豆（乾燥子実）の作付面積は14万6,200haで、前年産に比べ4,500ha（3%）増加した（表10）。

作付面積の動向をみると、外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移していたが、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加した。その後、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。平成7年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移し、平成16年以降は上下動のある動きとなっている（図8）。

(2) 小豆（乾燥子実）

令和3年産小豆（乾燥子実）の作付面積は2万3,300haで、前年産に比べ3,300ha（12%）減少した（表10）。

主産地である北海道の作付面積は1万9,000ha（全国の約8割）で、主に他作物からの転換等により、前年産に比べ3,100ha（14%）減少した。

(3) いんげん（乾燥子実）

令和3年産いんげん（乾燥子実）の作付面積は7,130haで、前年産に比べ240ha（3%）減少した（表10）。

主産地である北海道の作付面積は6,660ha（全国の約9割）で、220ha（3%）減少した。

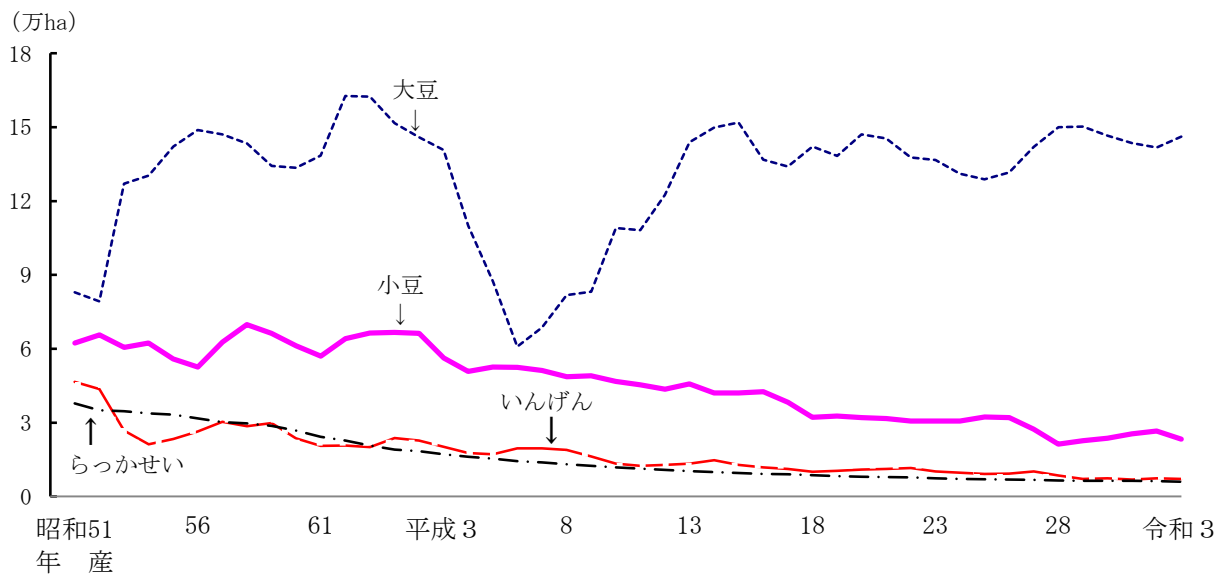
(4) らっかせい（乾燥子実）

令和3年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積は6,020haで、前年産に比べ200ha（3%）減少した（表10）。

表 10 令和3年産豆類（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	大豆			小豆			いんげん			らっかせい		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	146,200	4,500	103	23,300	△ 3,300	88	7,130	△ 240	97	6,020	△ 200	97
北 海 道	42,000	3,100	108	19,000	△ 3,100	86	6,660	△ 220	97	8	nc	nc
都 府 県	104,200	1,500	101	4,300	nc	nc	466	nc	nc	6,010	nc	nc
東 北	35,600	700	102	735	nc	nc	58	nc	nc	x	nc	nc
北 陸	11,700	△ 200	98	322	nc	nc	61	nc	nc	27	nc	nc
関東・東山	9,740	170	102	683	nc	nc	334	nc	nc	5,650	nc	nc
東 海	12,200	400	103	107	nc	nc	1	nc	nc	75	nc	nc
近 畿	9,270	170	102	1,430	nc	nc	4	nc	nc	9	nc	nc
中 国	4,280	30	101	699	nc	nc	4	nc	nc	18	nc	nc
四 国	501	8	102	66	nc	nc	4	nc	nc	14	nc	nc
九 州	21,000	200	101	264	nc	nc	-	nc	nc	194	nc	nc
沖 縄	x	x	x	-	nc	nc	-	nc	nc	8	nc	nc

図 8 豆類（乾燥子実）作付面積の推移



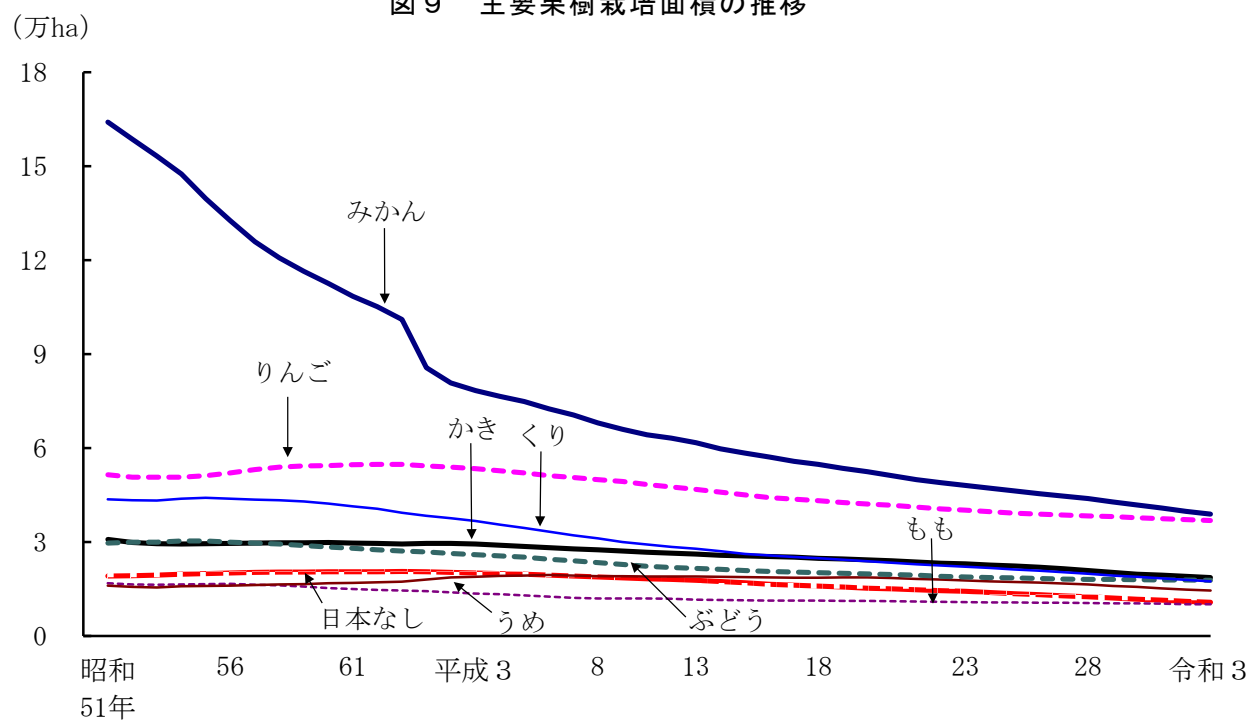
6 果樹

令和3年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは3万8,900ha、りんごは3万6,800ha、かきは1万8,600ha、ぶどうは1万7,700ha、くりは1万7,400haで、前年に比べそれぞれ900ha（2％）、300ha（1％）、400ha（2％）、100ha（1％）、500ha（3％）減少した（表11）。

表 11 令和3年果樹栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較			区 分	栽培面積	前年との比較		
		対 差	対 比				対 差	対 比	
	ha	ha	%		ha	ha	%		
み か ん	38,900	△ 900	98	す も も	2,840	△ 40	99		
その他かんきつ類	24,300	△ 300	99	お う と う	4,620	△ 60	99		
り ん ご	36,800	△ 300	99	う め	14,500	△ 300	98		
日 本 な し	10,700	△ 300	97	ぶ ど う	17,700	△ 100	99		
西 洋 な し	1,460	△ 20	99	く り	17,400	△ 500	97		
か き	18,600	△ 400	98	パインアップル	594	10	102		
び わ	972	△ 98	91	キウイフルーツ	2,020	△ 30	99		
も も	10,100	0	100						

図 9 主要果樹栽培面積の推移



7 茶

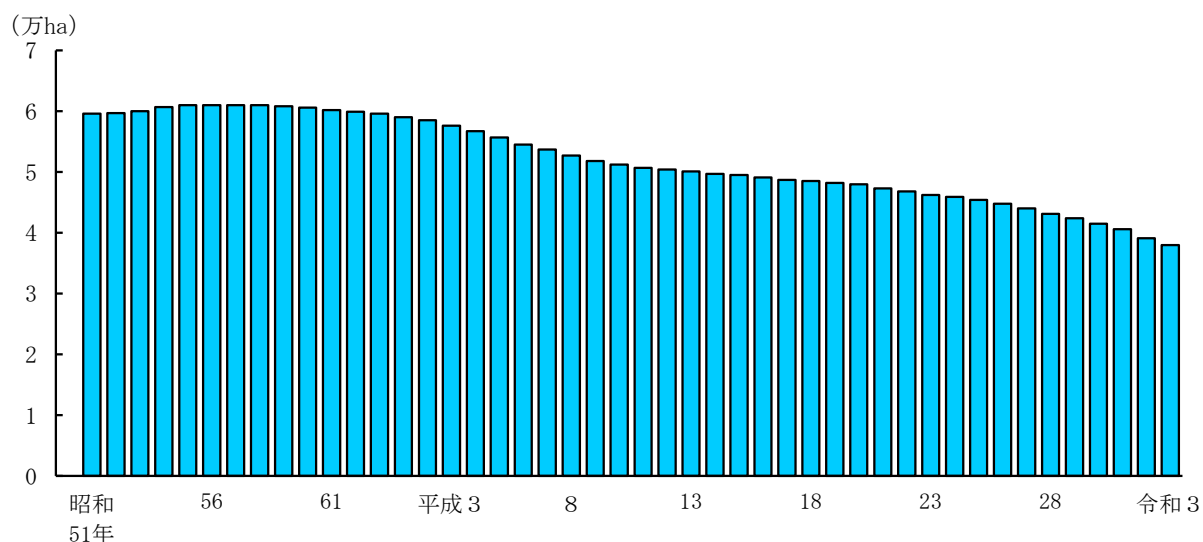
令和3年茶の栽培面積は3万8,000haで、前年に比べ1,100ha（3％）減少した（表12）。

栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している（図10）。

表 12 令和3年茶栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比
茶	ha	ha	%
	38,000	△1,100	97

図 10 茶栽培面積の推移



8 飼料作物、えん麦（緑肥用）

(1) 飼料作物

令和3年産飼料作物計の作付（栽培）面積は100万1,000haで、前年産に比べ4万5,300ha（5％）増加した（表13）。これは、飼料用米等の作付けが増加したためである。

ア 牧草

令和3年産牧草の作付（栽培）面積は71万7,600haで、前年産並みとなった。

イ 青刈りとうもろこし

令和3年産青刈りとうもろこしの作付面積は9万5,500haで、前年産並みとなった。

ウ ソルゴー

令和3年産ソルゴーの作付面積は1万2,500haで、前年産に比べ500ha（4％）減少した。

(2) えん麦（緑肥用）

令和3年産えん麦（緑肥用）の作付面積は4万5,100haで、前年産に比べ4,000ha（10％）増加した（表13）。

表 13 令和3年産飼料作物、えん麦（緑肥用）作付（栽培）面積

区 分	作付（栽培） 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比
	ha	ha	%
飼 料 作 物 計	1,001,000	45,300	105
うち 牧 草	717,600	△ 1,600	100
青刈りとうもろこし	95,500	300	100
ソ ル ゴ ー	12,500	△ 500	96
え ん 麦 （ 緑 肥 用 ）	45,100	4,000	110

注： 飼料作物計とは、牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴのほか、
その他飼料作物（飼料用米等）を含めた合計である。

図 11 飼料作物作付（栽培）面積の推移

